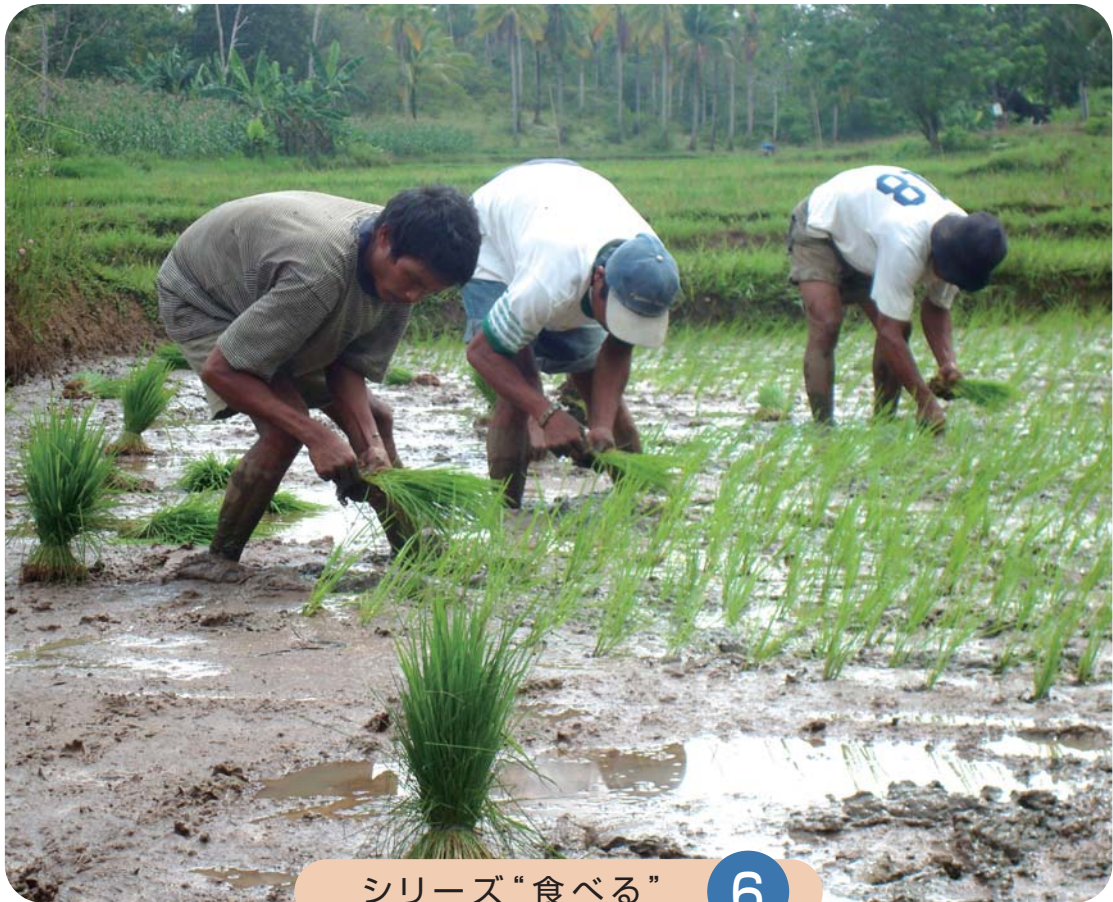


チャイルド・ファンド・ジャパンだより

[スマイルズ] 2009年12月NO.17

SMILES

<http://www.childfund.or.jp>



シリーズ“食べる”

6

—田植えをするお父さんたち—

フィリピンの主食はお米です。多くの地域では雨期になると地主が田植えのために人を雇います。土地をもたない農場労働者には貴重な収入の機会ですが、ほとんどの人が朝から晩まで働いても1日の最低賃金(約400円)を得ることができません。

写真:センター51(ミンダナオ島北サンボアンガ州)

ChildFund
Japan

チャイルド・ファンド・ジャパンは、1975年より、アジアを中心に貧困の中で暮らす子どもの健やかな成長、家族と地域の自立を目指した活動をしています。

特集

家族の生活改善を支援する
フィリピンの父親に

“子育て”支援を

家族の
生活改善

子どもの
成長

住民主体の
組織作り



家族の生活改善を支援する フィリピンの父親に “子育て”支援を

フィリピンで実施されているスポンサーシップ・プログラムは、右の三つの領域の活動から構成されています。「家族の生活改善」は、「親への職業訓練」「家庭生活を豊かにするセミナー」など幅広い活動が含まれます。母親たちは、こうした活動に積極的に参加するものの、父親たちの消極的な姿勢が目立つこともあります。そこで、多くの協力センターは父親に参加を促そうと取り組んでいます。今号では、ある家族の父親の変化を取材しました。

フィリピンの父親像

フィリピンでは、父親が稼いで家族を支え、子育てや家事は母親が担うという考え方があります。一家を支える父親は、子育てには積極的に関わらないため、子どもたちとの関係がギクシャクすることも多くあります。また、貧しさによるストレスから、子どもに暴力を振るってしまう父親もいます。

チャイルドのマリジョイの父親、パウリノさんも、そんな「伝統的な」父親の一人でした。野菜を町の市場へ運ぶため、夜中からトライシクル(写真参照)の運転手をして一家を支えていましたが、時間があると趣味の闘鶏用の鶏の世話にあけていました。「鶏の世話はしても、子どもたちの世話はしませんでした」と、妻のロヘリアさんは言います。仕事から帰宅した時、ロヘリアさんが家にいなかったことに腹を立てたパウリノさんから打(ぶ)たれたこともあったそうです。また、ささいなことで娘たちに暴力を振るうこともありました。

フィリピンのお父さんたち(も?) 子育てには消極的なことが多い...



仕事後のお酒はお父さんたちの楽しみ。ストレス解消のはずが、時々飲みすぎてしまうことも...

フィリピンで男性に大人気の賭けごとである「闘鶏」。一攫千金を狙って、子どもよりも愛情深く育てられている??



「家族の生活改善」とは

子どもにとっての一番のよどころであるべき家庭で良い人間関係を作り、親たちへの研修や少額貸しつけを通じて収入が向上し、経済的に安定していくためのプログラムです。

フィリピン

マニラ 42

センター42

“フィリピンでもっとも貧しい島のひとつ”といわれるサマル島で1999年から活動している。修道会を母体としており、現在200名のチャイルドと家族、地域を支援している。



トライシクル

客を運ぶための側車をつけたオートバイ



お父さんが **Change!** するまで

転機は、マリジョイがチャイルドとして支援を受け始めて間もなくやってきました。2005年、母親のロヘリアさんは、支援センターが行う「家庭生活を豊かにするセミナー」に一緒に参加しようとパウリノさんを誘いました。断る理由もなかったため、パウリノさんは参加することにしましたが、この参加の背景には、センターのある取り組みがありました。

<2005年> センターが父親の暴力に気づく

チャイルドのマリジョイが「打ち身の傷を手当してほしい」と祖母に連れられてセンターにやってきたことから、父親に暴力を振るわれていることをスタッフが把握。
精神的・身体的な暴力は母親にもおよんでいました。



父親のパウリノさん



マリジョイ

暴力を振るわれている母親の姿を目の当たりにして、マリジョイは体重が増えない

マリジョイの栄養状態

痩せている

センターのすすめでカウンセリングを受けた結果、パウリノさん自身も子どものときに親の愛情を受けた感覚に乏しく、自分の子どもたちとの接し方がわからなかったため、関係がギクシャクしていることがわかりました。センターでは「家庭生活を豊かにするセミナー」の参加をよびかけました。

<2006年>

「家庭生活を豊かにするセミナー*」に参加した効果が大きくあり、家族関係が良好になり始めました。

*家族の関係を見直し、より良い家庭を築くことを目的にしたセミナー。通常、夫婦や親子で一緒に参加し、現在の問題点を率直に話し合い解決法をさぐる。

マリジョイの栄養状態

痩せている

↓ **改善!**

やや痩せている

<2007年>

家族内の暴力が減りました。カウンセリングと定例家庭訪問によるモニターで両親の良い関係が見られ、マリジョイと妹は父親に自分の思いを話せるようになりました。

<2008年> 父親と娘に変化

新しいことを学ぶことに関心をおぼえたパウリノさんは、支援センターが父親向けに行っている「父親の役割を自覚し能力を高める研修*」に参加しました。自分を理解すること、父親の役割、夫婦の関係、子どもの成長、家庭内暴力とテーマが進むに従って、お父さんの態度に変化が表れました。

*「父親の役割を自覚し能力を高める研修」とは??

住民組織の活動に参加し、活躍するのが女性(母親)ばかりであることからセンターが導入した父親向けの研修。「父親」は生活費を稼ぐだけでなく、子どもの成長や家庭、地域で大きな役割を担っていることを、父親自身が気づき、変化することを目指している。写真は、父親たちが互いの家庭の問題をわかちあい、家族と良い関係になるにはどうすれば良いか本音で話し合っている様子



マリジョイの栄養状態

やや痩せている

↓ **大きく改善!**

標準



研修に使用するマニュアル

研修は教材に基づき、数回のセッションをとおして行われる。

<2009年> お父さんはどう変わった？

母

前は私がセンターの活動に参加することを反対していたわね。今はとても協力的になったわ。



父

昔は本当に気が短かったよ。家族を傷つけることで、自分の心も傷ついていることに気がついて、変わったんだ。

チャイルドの

マリジヨイ

前はお母さんの側から離れることが怖かった。今はお父さんとの距離が近くなったし、家族の大きな変化を友だちに話すこともある。

妹

遊んでいて家に帰るのが遅くなったときも、理由をちゃんと聞いてくれるようになった。前だったら、怖くて何も説明できなくて、叩かれていたと思う。

家族の再出発

今年の4月の早朝、いつものように仕事をしていたパウリノさんは、突然左手のしびれに見舞われました。何とかトライシクルを運転し続けて町にたどり着き、助けを求めました。直ぐに病院に運ばれたパウリノさんは「高血圧」



夫婦仲の改善もこの笑顔が証明。

と診断され、6日間に入院しました。外で仕事をするには控えた方がよいという医者のお忠告に、パウリノさんは絶望したそうです。一時は生まれ故郷のミンダナオ島へ帰ることも考えました。

しかし、家族で話し合いを重ね、支援センターのスタッフからの助言も得て、トライシクルを含めて売れるものは全て売って、自宅でサリサリ・ストア（家の軒下を利用した小さな雑貨屋）を始める決心をしたのです。生活の立て直しに向けた家族4人での新たな出発です。お店も軌道に乗りにかかったある日、「もしセミナーに参加して自分が変わっていなかったら、家族一緒に今の困難に立ち向かうことはできなかった」と、パウリノさんは支援センターのスタッフに言ったそうです。



センター長（前列中央）とセンタースタッフ。

センター長 シスター・マリア・ロリエタ・アリサ

2005年、センター長に就任した私は、間もなくセンターが活動する地域で、家庭内暴力が目に見えぬことに気づきました。そして、その大半は父親によるものでした。そこで「父親の役割を自覚し能力を高める研修」を実施することにしたのです。パウリノさんの例でもお分かりいただけるように、家庭内暴力は確実に減ってきています。また、父親と子どもの関係も改善しています。この研修に参加する父親も増え続けており、先日は、用意したおやつが足りなくなり、スタッフが慌てるという嬉しい出来事もありました。

取材後記 同じ父親として・・・

淡々と自分の経験を分かち合ってくださいるパウリノさん。夫や家族におこっている変化を満足げに話してくださいるロヘリアさん。今回の取材を通して、私は、子どもたちの父親として、そして夫として、自分の姿を省みる機会を得ることができました。助け合いながら困難を乗り越える家族の姿に感動し、エールを送って、支援センターを後にしました。

事務局長 小林 毅



事務局長(左端)チャイルドの父親たちとともに

*この記事の内容に関してはパウリノさんと家族に掲載の許可を得ています。

スリランカから vol.4

アーユボーワン



アーユボーワン:シンハラ語で「こんにちは」

スリランカの教育について知りたい!

昨年実施したスポンサーの皆様へのアンケートで、「学校について知りたい」という声がたくさんの方々から寄せられました。今号ではスリランカの教育についてご紹介します。

教育制度

スリランカの教育制度は5年間の初等教育、8年間の中等教育に続き、大学や専門学校などの高等教育から成ります(下表)。旧宗主国イギリスの影響を受け、小学校から高校まで一貫して教育を行う学校もあります。チャイルドは18歳までスポンサーシップ・プログラムに参加します。

スリランカの教育制度

の期間が義務教育です

	初等教育					前期中等教育				後期中等教育				高等教育
	プライマリー (小学校)					ジュニアセカンダリー (前期中学校)				O(オー)*1レベル (後期中学校)		A(エー)*2レベル (高校)		大学 / 専門学校
学年	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	7年生	8年生	9年生	10年生	11年生	12年生	13年生	3~6年間
年齢	6*3	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19~

*1 Ordinary(普通)レベルの略。11年生終了時に高校進学のためのG.C.E.Oレベル試験(G.C.E: General Certificate of Education中等教育修了証明)を受けます。

*2 Advanced(上級)レベルの略。13年生終了時に大学進学のためのG.C.E.Aレベル試験を受けます。

*3 正式には6歳で小学校入学ですが、5歳でも入学可能です。

一年の暦

3学期制で、1月に始まり、12月に終わります。

1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
1学期			新年休暇	2学期			休暇	3学期			休暇

*ムスリムの子どもたちはラマダン(断食月)も休暇で、その分土曜日に振替授業を行います。

何を勉強しているの?

大きく分けて国語(シンハラ語、タミル語)、算数、英語、宗教、生活科です。「生活科」(環境科とも呼ぶ)は、社会科、理科、家庭科、保健体育、道徳などから成る総合的な科目です。

教育の課題

スリランカの公教育は授業料が無料で、制服や教科書も無償です。一方、教育の質の面では都市と農村の格差が大きく、チャイルドたちが住む農村部では、教師が不足し学校の設備も不十分です。働くために学校に通えなかったり、学校が遠いため通う意欲を失ったり、親が十分に教育を受けておらず教育の重要性を認識していないケースもあります。スポンサーシップ・プログラムでは、子どもたちが学校に通いつづけられるよう、学校設備を整備し、通学用の自転車を支給したり、親の教育への意識を高める啓発活動を行っています。



支援地域の学校で

「保健行政システムのキャパシティ・ビルディングによるネパールの女性と子どもの栄養改善計画」が終了しました。



「草の根の栄養改善活動が芽生えて <事業終了のお知らせ>」

活動の一部をJICA草の根技術協力事業(パートナー型)として実施

- 協力期間: 2006年10月1日～2009年9月30日
- 支援対象: ネパール保健省、中部・西部地方の5郡の全保健行政スタッフならびに女性地域保健ボランティア
- 協力団体: ネパール保健省・NPCS (Nutrition Promotion and Consultancy Service)

「子どもたちの2人に1人は栄養不良にある」と言われるネパールで、保健行政システムの能力強化を通じて「村の人でも買うことができる、地元で入手可能な食材を使い、子どもたちの栄養を改善できるようにしたい」という願いをこめて始められたこの事業は、3年間の活動を終え、今年9月30日に終了しました。活動の一部はJICA「草の根技術協力事業(パートナー型)」として実施しました。山間部と平野部を含む5つの郡で、保健省のもとで働く保健ワーカーと保健ボランティアを対象に、「食生活改善アプローチ」の普及を目指し、3,000名を越える保健ワーカーや保健ボランティアに研修を行い、ネパールの保健行政システムを通じて子どもたちの栄養改善活動を促進させました。特に、実践的な知識の提供や栄養改善活動の支援は、村にある保健所のスタッフだけでなく、保



*1 郡保健行政官(右から3人目)と共に、村での栄養補助食の生産と販売について話し合うボランティア保健ワーカーや母親グループのリーダーたち(左側の女性たち)。パルパット郡、ビバルタリ村で。

健ボランティアやお母さんたちからも喜んで受け入れられました。今では、郡保健事務所が独自予算で栄養不良児にリハビリを実施したり、大豆、トウモロコシ、小麦を配合した栄養補助食を地域の母親や保健ワーカーが協同で手作りし販売するなど(写真*1)、子どもの命を守る新たな草の根の活動が芽生えています。JICAネパール事務所との終了時事業評価の協議では「このプロジェクトによる女性地域保健ボランティアや保健所スタッフへの能力開発により、保健所での軽度の栄養不良への対応が可能となった。保健ボランティアも自信を育み、今後、栄養改善に向けた母親グループへの知識の普及が期待される。」とのコメントがありました。これまで3年間、皆様からいただいたご支援に改めて感謝申し上げます。

(プログラム・グループ 松浦 宏二)



ナワルバラン郡での体重測定活動で重度の栄養不良と診断され、治療のため首都カトマンズの小児病院に搬送された子ども。1週間の治療で生命の危機は脱し、その後、家に戻ってリハビリ活動が継続された。



～ 5周年記念事業 ～

皆さんからのご意見・ご要望

SMILES16号で、5周年記念のイベントについてご意見やご希望をお聞きしたところ、スポンサー同士のつながりを感じることができるものにしてほしいとのご要望が寄せられました。そのご要望をイベントの企画に活かしていきたいと考えています。どうぞご期待ください。

5周年記念映画の撮影が順調に進んでいます

映画(製作:暮らしの映像社)の完成に向けて、フィリピンとネパールで撮影を行いました。フィリピンでは、チャイルドの一日の生活を撮影するため、夜明け前から夜まで家庭を訪問しました。ミンダナオ島では、ゴミ捨て場の撮影のため長靴をはきましたが、足場が悪く、撮影に苦労しました。ネパールでは、電気のない民家に泊まり、水浴びも着替えもままなりませんでしたが、遥か遠くにヒマラヤの雪山を望む感動的な大自然の中で撮影が行われました。スリランカの映像も加えて、映画の完成は来年9月の予定です。どうぞ本編をお楽しみに!



フィリピンのチャイルドたちの遊んでいる場面の撮影。(監督とカメラマンが履いている長靴に注目してください):ミンダナオ島、ディボログ

* ハロハロとはタガログ語(フィリピン語)で“いろいろ”“まぜこぜ”という意味です。
このページは読者の皆様からのリクエストや投稿などをもとに作るページです。

ハロハロのページ

チャイルドの「日本」体験

チャイルドのリサ・ジョイさん(大学4年生)が、日本政府による「21世紀東アジア青少年大交流計画」により、5月12日から10日間の日程で来日しました*。この事業は、青少年交流を通じてアジアにしっかりとした土台を作ろうというねらいで日本政府が実施しています。15倍(!)の難関を突破して来日したリサ・ジョイさんにインタビューしました。



リサ・ジョイさん
(大学4年:会計学専攻)

小学校4年生のときから、阿佐ヶ谷教会の皆さんにチャイルドとしてご支援いただく。
《大学の教室の前で:フィリピン》

何故プログラムに応募したのですか?

一年前、大学のクラスメートがこのプログラムで日本を訪ねました。その時から、自分も応募したい、支援くださるスポンサーが住んでいる日本を見てみたいと強く思うようになり応募しました。

日本について、どのような印象を持ちましたか?

「きれいな国」というのが一番の印象です。日本滞在中、ゴミが山積みされているのを見ることがありませんでした。そして、産業や技術がとても発展しているのに、訪ねた長野県では自然が豊かなことにも驚きました。

驚いたことは?

東京では7日間、新宿に滞在しました。街で見かける人々も出会った方々も忙しく動いていることに驚きました。忙し過ぎて、家族とゆっくり過ごす時間もないのでは?と心配になります。

一番嬉しかったことは?

ご支援くださるスポンサーの皆さんにお会いできたことです。フィリピンに帰る前日、滞在していたホテルに訪ねてきてくださいました。直接お礼を申しあげることができて、本当に感激しました。



願いが叶ってスポンサーの方々と面会。左から、高月さん、リサ・ジョイさん、高橋さん、町田さん(東京・新宿にて)

阿佐ヶ谷教会・しおん会のメンバーの町田さん(右端)

リサさんが日本に来ると聞き、メンバーを集め、滞在先に駆けつけました。短時間でしたが、リサさんと会ってしっかりと様子を拝見して、とても嬉しかったです。しおん会は1979年からチャイルドを支援しており、今は20名ほどのメンバーがいます。私は日本によって戦争被害を受けた国の子どもに何かできればとの思いで続けてきました。リサさんは宣教師になる夢も持っていると話してくれました。いつか彼女の説教を聞くことができれば、どんなに素晴らしいでしょうね。



帰国後、スポンサーに届いた手紙より抜粋

スポンサーの皆さんにお会いしたいという、ずっと神様にお祈りしていた私の夢のひとつがかないました。いつか、しおん会の皆さん全員と会うことができますように。

*チャイルド・ファンド・ジャパンは、チャイルドを日本にまねくことはしていません。文化、生活スタイルなどの違いにより、成長過程にある子どもの価値観の混乱を防ぐためです。スポンサーの方が支援国にチャイルドを訪問することはできますので、ご希望される場合は事務局までご相談ください。

インフォメーション コーナー

報告 台風16号によるマニラ首都圏緊急支援報告

台風16号により、9月に発生した被害に対する緊急支援のため、ホームページおよび被災地に暮らすチャイルドのスポンサーの方々から募金を呼びかけたところ722,951円のご寄附をいただきました。(11月13日現在)。感謝をもってご報告いたします。

センターでは、被災直後に避難した家族や子どもたちへの食糧支援を行いました。また、学用品、下着、靴、かばんを配布し、通学を再開した子どもたちの必要に応えると共に、災害時用の緊急必要品を揃えた災害キットを配布して、今後の事態に備えています。避難所などでの生活を経験した子どもたちには、簡単な心理的カウンセリングを実施し、被災経験が「こころの傷」となって残らないように働きかけています。

台風緊急支援の募金は引き続き行っています。ご協力くださる方は、事務局までお問い合わせください。



台風の被害を受けた支援地域(センター45)



緊急必要品の配布を手伝うチャイルドたち(センター45)

報告 『つながりふるじえくとチャリティ古本市 2009 夏! 古本キャラバン』

8月24日から28日まで、キーコーヒー株式会社、キッコーマン株式会社、株式会社ジャパンエナジー、日本たばこ産業株式会社、株式会社日立ハイテクノロジーズとの協働による、チャリティ古本市を開催しました。今年は古本の募集期間が約2週間と短かったにもかかわらず、支援者の皆様からは約8,000冊もの古本が寄せられました。ご協力ありがとうございます。古本の売上金は、フィリピンの5名のチャイルドの支援継続と、来年より開始するネパールのスポンサーシップ・プログラムの準備資金として活用されます。



「床にまで並べられたたくさんの古本」キッコーマン株式会社にて



「フィリピンコンサート」では東京外国語大学のフィリピン民族舞踊団の皆さんによる公演も行われました。

感謝 書き損じハガキの活用について

今年、皆様よりお送りいただいた書き損じハガキや切手は、ネパールのアマルプール小学校建設事業の支援に活用いたしました。(予算300万円)9月30日現在、2,183,176円分のハガキや切手をお送りいただいております。ご協力くださった皆様ありがとうございます。引き続き来年も書き損じハガキを募集いたしますので、ご協力をよろしくお願いいたします。

お知らせ 領収証の送付について

2010年1月半ばに領収証を発送いたします。(ご寄附ごとに領収証を送付している分を除きます。)この領収証は確定申告の際に所得税の寄附金控除に使用していただくことができます。当団体が国税庁長官により「認定NPO法人」として認定された2009年4月1日から12月31日までの寄附が対象となります。

尚、2010年1月1日に、東京都にお住まいの支援者の皆様からのご寄附は、住民税に対しても寄附金控除の対象となります。(詳しくは東京都主税局ホームページ<http://www.tax.metro.tokyo.jp/>をご覧ください)

お知らせ 「2010年フィリピン訪問の旅」の中止について

2010年春に予定をしていた「フィリピン訪問の旅」は新型インフルエンザの影響により、残念ながら中止いたします。楽しみに待ってくださった皆様、申し訳ございません。次回の開催につきましては日程が決まり次第、お知らせいたします。ぜひ次回の参加をお待ちしています。

お知らせ チャイルドの成長記録とクリスマスカードのお届け

フィリピンのスポンサーの皆様には、「チャイルドの成長記録」を11月半ばまでにお届けいたしました。スリランカの「チャイルドの成長記録」も順次お届けします。また今年もクリスマスカードを12月にお送りします。チャイルドが思いを込めて作ったカードです。どうぞ楽しみにお待ちください。

お知らせ 「子どもの権利条約」20周年とキャンペーンの参加

「子どもの権利条約」が、1989年11月に国連総会で採択されてから20周年を迎えました。チャイルド・ファンド・ジャパンは、団体のミッション(下記参照)にそってすべての子どもに開かれた未来を約束するためのさらなる一歩として、「国連子どもの権利委員会に個人が申し立てできる制度を作ろう!キャンペーン」に参加しています。詳しくはホームページをご覧ください。

ChildFund
Japan

Vision Mission

チャイルド・ファンド・ジャパンは
ここに掲げるビジョン(目標)、ミッション(使命)に
基づいて活動します。

ビジョン(目標)

すべての子どもに
開かれた未来を約束する
国際社会の形成

ミッション(使命)

生かし生かされる
国際協力を通じて
子どもの権利を守る

チャイルド・ファンド・アライアンス

ChildFund
Alliance

人種、宗教、性別、国籍を問わず世界の子どもたちに、効果的な支援活動をするためのネットワークで、子どもたちに向けたスポンサーシップ・プログラムを行う12団体から構成されています。チャイルド・ファンド・ジャパンは2005年4月に加盟しました。

スマイルズ

<チャイルド・ファンドより SMILES> 2009年12月発行
〒167-0041 東京都杉並区善福寺2-17-5
特定非営利活動法人チャイルド・ファンド・ジャパン
理事長 深町正信(青山学院名誉院長) 事務局長 小林毅
TEL. 03-3399-8123 FAX. 03-3399-0730
E-mail: childfund@childfund.or.jp
URL: <http://www.childfund.or.jp/>

(デザイン)
モスデザイン研究所
(印刷)
有限会社東西印刷



大豆インキを使用